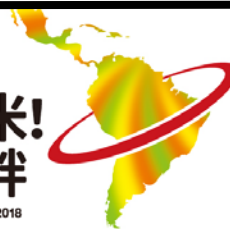




VIVA中南米!
深まる絆

©JICA 2018



日系人医師が、ブラジルから九州に 内視鏡診断法、治療法を学びに来ます

中南米では食生活の西欧化で、以前は少なかった胃がん、大腸がん、すい臓がんなど、消化器の病気が増えています。一方で、日本の内視鏡による早期がんの発見と治療技術の高さは、ほかの先進国をも圧倒する高いレベルにあります。

ブラジルには約1万5,000人の日系人医師がいます。

JICAは、中南米地域の日系人社会における人材育成を支援する業務として日系研修員受入事業を実施しています。その一環として、九州大学病院のご協力により、「早期胃癌の内視鏡診断と治療」コースを実施します。

過去約40年にわたりJICAを通じた日本の研修で先進的な医療技術を身につけ、帰国後は診療、治療に当たるだけでなく、身につけた技術を他の医師にも伝えるなど、ブラジルの医療分野に貢献する日系人医師が多く、日系団体が経営する病院も多い。

今回の研修員も、帰国後、医師として日系人としてその活躍が期待されています。

■研修参加者

ブラジル在住の日系2世 1名(九州にもルーツがあります。)

日本語堪能ですので直接インタビュー可能です

■取材対象日

7月5日(木) 9:30~14:00 : 於 九州大学病院

ブタ切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション

* 詳細情報は、ご連絡頂いた方にお渡しいたします。

取材して頂けます場合、病院施設立ち入りや、撮影許可等の手続きがございますので、**必ず6月25日(月)まで**に、問い合わせ先ご連絡お願いいたします。

* なお、個人情報保護の観点から、撮影には制限があります。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA九州 研修業務課 (担当 内田、古谷)

TEL 093-671-8360 FAX 093-671-0979

e-mail Uchida.Makoto@jica.go.jp